

**基礎医学委員会機能医科学分科会 第25期第2回
議事要旨**

I 日 時 令和3年3月5日(金)14:00～16:00

II 会 場 オンライン会議

出席者(敬称略):赤羽悟美、今井由美子、大場雄介、岡村康司(幹事)、垣塚彰、金井好克(副委員長)、
加藤総夫、河合佳子、内匠透、多久和典子(幹事)、鍋倉淳一(委員長)、西谷友重、
本間さと、吉岡充弘

欠席者(同上):池谷裕二、伊佐 正、上田泰己

III 議 事

- 1、各委員の自己紹介がなされた。
- 2、第1回委員会の議事要旨の承認がおこなわれた。
- 3、本分科会の活動計画について、議論をおこなった。

まず、日本学術会議の活動目的として「学術に関する重要事項を審議し、その現実を図ること。科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること」<http://www.scj.go.jp/ja/scj/index.html> に基づき、分科会の役割として「①政府に対する提言、②国際的な活動、③研究者間ネットワークの構築、④科学の役割についての世論啓発」であることを確認した。

またこれらの日本学術会議の目的を前提として、今後具体的に以下の活動をおこなっていくこととした。

① 政府に対する提言

- 1) マスタープランの策定。他の分科会との協力。
- 2) その他;分科会からの発信
学術会議からの提言への審議・協力

② 国際的な活動

- 1) 日本学術会議の国際活動への協力
- 2) 機能分科会による国際活動

③ 研究者間ネットワークの構築

- 1) 機能分科会単独・共催シンポジウム 年一回程度(他の分科会との連携シンポジウムを含む)
学会大会における日本学術会議後援シンポジウム等を通じての活動(後援シンポジウムを申請する場合、過去の例からは、開催の半年前頃には申請して、承認が必要)

年1-2回

提案済:第100回 日本生理学会大会(2023年 大会長 伊佐委員、京都)

- 2) 新たな研究者間ネットワークの構築:他の分科会との連携

④ 活動および関連分野の紹介科学の役割についての世論啓発

主催・連携シンポジウムを一般社会に公開。学会における市民公開講座の共催など。

(啓発活動については、多久和委員から、日本学術会議のHPに、一般向けに公開されたサイエンスの啓発のためのコンテンツ(「おもしろ情報館」2001年公開)が掲載されており、一般のひとからのアクセス数が多い

2021.3.11 案

ことが説明された。議論の中で、「おもしろ情報館」に機能分科会としてのコンテンツを加えていくことなどが今後の可能性として指摘された。)

これらの各項目について情報の集約をおこなうための担当者が以下のように委員長から指名された。

① 伊佐委員、吉岡委員 ②加藤委員、金井委員 ③内匠委員、赤羽委員 ④西谷委員、岡村委員

4、日本学術会議幹事会の活動内容について多久和委員から説明がなされた。

5、本分科会から提言すべきテーマとして何が相応しいか、討論をおこなった。その結果、以下の課題が今後提言するに相応しいテーマとして挙げられた。

① 実験動物について

5年毎に動物愛護管理法の改訂が検討されており、実験動物を研究に用いる状況が常に変わりつつある。現状の機関認証の制度が維持されるかも危ぶまれており、外部検証のやり方の提唱なども含め検討していく必要がある。実験動物分科会とも連携し議論する必要がある。

② 技術の継承について

電気生理学、電子顕微鏡など、トレーニングに時間がかかるが長期間に亘り医科学の研究の発展に重要である研究技術について、精通した人材をどのように大学で維持し育成していくか、また、どのように技術を継承できるようにするか、他の分科会とも連携しながら検討していく必要がある。

③ 医学教育について

医学教育に必須である、生理学、薬理学を学問体系として重要性の高いものとして明確に位置づけることが重要である。また学問としての重要性を学生に伝えるとともに、研究と教育の間の人材の不均衡(例:上皮や消化器系などを専門とする研究者が不足)をどのように克服できるのかを検討していく必要がある。基礎研究医制度が2022年から開始するにあたり、どのように生理学や薬理学などの基礎医学の分野を若手にアピールしていくかが急務である。

④ 研究費について

分野が発展するためにはファンディングの拡張が不可欠であるが、JST や AMED など、研究費を重点配分すべき重要な研究分野として認識してもらうために、どのような働きかけをすればよいか。今後もマスタープラン策定への参画を検討することに加えて、マスタープラン以外に、分科会から機能医科学研究分野の推進の重要性を訴えることができる仕組みを検討することも必要なのではないか。

これ以外にも、③にも通じる内容として、「分子生物学会などに代表される分子を基盤とする分子医科学には見られない、機能医科学のサイエンスとしての魅力を、生理学会、薬理学会という学会の場を越えて、コンセプトとして、提示する必要がある(とくに若い人材が集まるように)」という意見が出された。

5、これらのテーマについてワーキンググループを立ちあげることとなり、意見交換を呼びかける世話人として以下の委員が委員長から指名された。他の委員も適宜、希望してどれかのワーキンググループに参加いただくこととなった。

① 実験動物について: 加藤委員、鍋倉委員長、伊佐委員

- ② 技術の継承について：岡村委員、吉岡委員、金井委員
- ③ 医学教育について：垣塚委員、河合委員、内匠委員
- ④ 研究費について：伊佐委員、上田委員

6、当分科会は年3回程度おこなうこととし、次回は6月頃を予定することとした。それまでに、上記のワーキンググループを開始することとした。

< 配布資料 >

第25期 機能医科学分科会第2回委員会 議事次第

第25期 機能医科学分科会第1回委員会 議事要旨案